友愛
発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽町7の10
電話 大塚（941）2801
編集兼発行人 高野政利
定価 1部 10円

入会申込は支部または本部までハガキで御連絡下さい
東京都文京区音羽町七の十
友愛青年同志会

第17回幹事会を開催

下半期事業を具体化

日韓問題に論議の盛上り

第十七回幹事会は、今年度上半期の成果と反省の上に立って、この下半期をより充実したものにするため、全国から幹事の出席を求めて開かれた。

議事の内容は、延々七時間に及ぶ真剣な討議を重ね、年度初頭に決定された全国大会の基本内容を更に具体的なものとすることに成功した。この幹事会の決定によって下半期事業が益々活発に展開されることを期待するものである。

第十七回幹事会は去る十月三十一日午前十一時より、東京都文京区の椿山荘において開かれた。会議は、まず高野政利総務部長の司会によって開会され、初めに尾形智短幹事長から『国内外の諸情勢がまことに緊迫している折柄、本会はこの上半期各面にわたって活動を展開してきた。下半期においても国内外諸情勢との関係を考えながら充分の活躍をしたい。従って本日提案の各議題に対する真剣な審議を願いたい』との挨拶があった。続いて議長の選出に入り、議長に田久保尚俊君（船橋支部長）が選挙され、直ちに議事に入り、初めに高田靖事務局長から、本会上半期の一般会務報告がなされた。その概要は『第十二回全国大会の際決定された基本方針"内部充実の諸問題を解決する方向で各種の事業と組織強固がおこなわれた。また、対外活動においても、核禁会議を通じての終戦二十周年記念広島集会、長崎集会をはじめとしてその後直ちに議事に入り、一部字句の修正をして可決。第六号議題「日韓友好条約批准について」は、ここで議長が田久保尚俊君から、飯塚祥太郎君（常任幹事）に交代して審議が進められた。この問題については、日韓条約批准の諸問題を解決する方向で各種の運動に入ることが、果たして政治活動に関係することになるか否かということから話がはずみ、尾形智短幹事長から、日韓条約の促進は政治活動ではなく、純粋な国民運動であることの解答があり、更に奥田吉郎副会長からも、日韓条約の内容についての説明がおこなわれた。その後約一時間半に亡たる討論をして採結の結果、賛成が過半数を占めて可決された。第七号議題「鳩山集会長喜寿の祝いについて」は、来たる十一月二十一日に鳩山会長が喜寿の日を迎えられるので、全国の同志と共にこれを祝いたいとの提案があり、一致可決された。

以上ですべての議事を終了し、会場を会長部屋に移して懇親会を開き、午後八時過ぎ各自解散を終えた。

【全国幹事会の開会式】

日青協と懇談会開く

青少年・時事問題等を語る

恒例の日本青年団協議会と本会との懇談会は、日青協の役員選出が七月にもおこなされたために、おくれ、十月十二日午後六時より鳩山邸離れにおいて開催された。

高野政利常務の司会により、本会からは奥田吉郎副会長、日青協からは矢野茂文会長の交歓挨拶があり、自己紹介を終って懇談に移った。

話題は、農村及び都市の青少年問題、日韓問題、日ソ親善委員会、青年大会、組織問題、学生部の問題、婦人問題等について懇談した。

◇出席者
◇日青協＝矢野茂文会長、田口清寛、萩原八郎、成沢勇記副会長、玉木義、林悠雄、大田成一、飯島方子常任理事、高師成雄事務局長、寺坂行雄総務部長、水野文四郎組織部長
◇友愛＝奥田吉郎副会長、尾形智短幹事長、高野政利総務部長、田中祥子幹事長、高師成雄事務局長、佐藤弘情宣部長、越川隆平業支部長

オットー大公を歓迎

オーストリア カ伯の紹介で来日

本会名誉会長ヴーデンホフ・カルレギー伯の紹介によるオーストリアのオットー大帝の孫にあたり現在欧州諸国民自決会議の副会長であるオットー・ホン・ハプスブルグ大公並びに妃殿下は、メキシコ旅行の途中来日された。

十月十二日午後六時からホテル・オークラにおいて一時間にわたって懇談、本会からは奥田吉郎副会長、尾形智短幹事長、長田正太郎地対部長が出迎えた。

十四日午後六時からホテル・オークラにおいて一時間にわたって懇談、本会からは奥田吉郎副会長、尾形智短幹事長、長田正太郎地対部長が出席した。

十月十二日、篠浦事務局長経過報告をおこない、渋沢海外技術協力事業団理事長、竹下内閣官房副長官らが「友情の大使としてがんばってもらいたい」とあいさつし、隊員代表が宣誓した。

本会からは長田正太郎地方対策部長が出席した。

第一次派遣団は、フィリピン、マレイシア、ラオス、カンボジアの四ヵ国に派遣されるが十二月から二ヵ月間、横浜の外務省研修センターで毎日十時間のきびしい訓練を受け十二月中旬出発する予定である。

会長の喜寿を祝おう

本会鳩山会長は明治三十一年十一月一十一日に生れ、今年は七十七才の喜寿の誕生日を迎えられる。

本会会員会員諸兄姉の御縁より当日、祝電、御祝いの言葉をいただきたい。

なお、東京では十一月二十四日椿山荘において祝賀会をおこなう予定である。

古家君帰国

第七回政府青年海外派遣団北欧班に参加し渡欧中の秋田地区貴任者、古家勝男君は十月十日午後五時五十分日本航空で無事帰国した。古家君は北欧各国の青少年教育を中心に調査研究をしてきたが帰国後の活動が期待されている。

MAYC会長秘書 日本の青少年教育視察

去る十月二十日（水）マレイシヤ青年クラブ協会会長の秘書であるアブドーラ・ジャリイル・ビン・タト・アブドーラ氏は夜九時三十分着のキャセイ航空で羽田に着いた。

来日前に既にバンコック、ホンコン・タイペイ等を視察し、最後に日本を訪問したもので、ジャリイル氏は対し本会では法藤弘幹事（情報収集担部長）が代表して彼の日本の案内の手伝いをした。

昔日の目的は、日本の青少年問題を中心に、青少年指導者のあり方、青少年の青少年運動に参画している民会等特に青少年指導を視察するため訪日したものである。

彼は、日本の青少年運動を視察する合い間に文部省の社会教育課長、中央青少年問題協議会の事務局長等と面会、大いにその成果を挙げた。

彼は、帰国後青少年指導者に専心するかたわら、政治、社会、経済等の面の積極的に研究してゆきたいとその抱負を述べていた。

ジャリイル氏談＝マレイシヤで友愛青年同志会は非常に大派な団体であると聞いていたが、実際に自分の目でみて、友愛青年同志会について認識を新たにした。

今後は一層深い交流を望むとともに、お互いの向上をはかりたい

海外派遣団員募集

名称 第四次友愛東南アジア使節団

主旨 本会の友好団体であるマレイシア青年連盟（MAYC）およびカンボジア王国社会主義青年同盟（RUSY）の招待により、両国を中心に東南アジア七ヶ国を歴訪し、各国青年代表、政府関係者と懇談し各国の友好親善に努める。

日程 昭和四十一年十二月二十七日から約三週間

訪問国 マレイシア、シンガポール、タイ、カンボジア、ベトナム、香港、中華民国。

派遣人員 二十名。

資格 本会々員で都道府県連支部、地区責任者の推せんする者。

経費 約二十三万円（旅費、宿泊費、手続経費を含む）

申込み 履歴書、戸籍抄本、写真五枚に申込み金二万五千円を添えて本部事務局に申請する。

〆切 十二月十日必着。

団員発表 常任幹事会で審議の上昭和四十一年一月早機関紙および本人に直接通知する。

問合せ 本部事務局、東京都文京区音羽町七丁目十番地。

核兵器禁止を訴る

東南アジア平和使節団を派遣

激動する東南アジアを訪問し各国の指導者と会見し核兵器の禁止と平和を訴える「核禁東南アジア平和使節団」は十月二十三日羽田港を出発した。

一行は核禁会議専任理事、和田耕作氏を団長に、同じく専任理事の紀平行雄氏を事務局長とする九名で構成されている。

フィリッピン、タイ、シンガポール、インドネシア、マレーシア、カンボジア、南ベトナム、香港、中華民国を約二十日間巡回し、

（一）中共政府の核実験を阻止するため、アジア諸国民は心を合わせ、アジア諸国が世界の"核拡散"防止を達成するよう団結し、率先して世界各国に呼びかける。

（二）アジア諸国民は感恩に相提携して地球上から核兵器を廃止し、人類滅亡を救うため今後の国際世論を強力に推進する。

以上三点を訴えて来る。

なお一行は十一月十三日夜帰国の予定である。

満生さん世界一周

本会相談役満生雄芳さん（東京文化女子学園々長・桂田美モードサロン社長）は十一月十一日午前十一時発の飛行機で世界の結婚衣装研究のため出発した。

全国で 時間を守る運動 を展開しよう

直言

◆日韓批准国会も、それぞれに党議をかけて審議し、益々混乱の様相を呈してきている。直言子も国民の一人として、この問題に強い関心を抱いている者である。国会に本会の横断的な協力をし、街頭募金も実施した。この他に日韓条約批准促進国民会議に参加し、日韓問題に対する取り組みもおこなっているが、これは六号議題で提案しているので改めて討議検討されたい」とのものであった。この報告に対する質疑応答がなされたが、そのほとんどは日韓問題に対するものであり、この点については六号議題まで保留として報告事項を承認した。

つづいて第一号議題「昭和四十年度下半期事業計画」の審議に入り、一部字句修正の上本部原案通り可決された。第二号議題「第十三回全国大会の開催について」は提案通り、来年五月一日～五日の間に東京都において開催されるよう決定。第三号議題「友愛理論の学習強化について」は"内部充実の年"にふさわしい内容を盛り上げるために本部においても、地方においても学習活動を強化すべきであるとの提案があり、了承された。第四号議題「組織の総点検について」は今年度上半期に実施した第二次組織調査の報告書に基づき、組織の総点検をするとともに今後の具体的な組織活動の指針とすることが確認された。第五号議題「オーストリア青年連動会議との議定書の交換について」は、先に同会議を訪問した山崎宗常任理事が持ち帰った議定書（詳細は別掲を参照）を審議した結果、一部字句の修正をして可決。第六号議題「日韓友好条約批准について」は、ここで議長が田久保尚俊君から、飯塚祥太郎君（常任幹事）に交代して審議が進められた。この問題については、日韓条約批准の諸問題を解決する方向で各種の運動に入ることが、果たして政治活動に関係することになるか否かということから話がはずみ、尾形智短幹事長から、日韓条約の促進は政治活動ではなく、純粋な国民運動であることの解答があり、更に奥田吉郎副会長からも、日韓条約の内容についての説明がおこなわれた。その後約一時間半に亡たる討論をして採結の結果、賛成が過半数を占めて可決された。第七号議題「鳩山集会長喜寿の祝いについて」は、来たる十一月二十一日に鳩山会長が喜寿の日を迎えられるので、全国の同志と共にこれを祝いたいというものであり、一致可決された。

以上ですべての議事を終了し、会場を会長部屋に移して懇親会を開き、午後八時過ぎ各自解散を終えた。

◆自青協＝矢野茂文会長、田口清寛、萩原八郎、成沢勇記副会長、玉木義、林悠雄、大田成一、飯島方子常任理事、高師成雄事務局長、寺坂行雄総務部長、水野文四郎組織部長
◇友愛＝奥田吉郎副会長、尾形智短幹事長、高野政利総務部長、田中祥子幹事長、高師成雄事務局長、佐藤弘情宣部長、越川隆平業支部長、長田正太郎地対部長、篠浦事務局長

◆日韓問題は、両国の国民感情の問題であり、国交正常化の問題は、国民の理解と共に、国会の審議を通じて、国民の理解を深めるべきである。今回の会員諸兄姉も恐らく同じ気持であろうと推察する。

◆日韓問題を批准するために、賛否両論による、大衆運動が盛んであるが、様々な思想的背景と理解の仕方によって、平和的運動あるいは政治活動としての見解があるようである。勿論、国民の一人として問題の焦点を見極める必要もあるし、本会にとっても、必要限度の学習活動をおこなうことも考えなければならないが、民間における賛否双方の直接行動には、充分な理解と、間接的な国会への反映を願わずにはいられない。

◆国会における下半期の事業計画が審議されるとともに、日韓条約批准に対する本会の態度が決定された。しかし、本会がこのような態度を決議したのは、必ずしも将来のこの種の路線を打ち出したものとは思われない。当然賛否両論の意見によって二分されたことは事実だし、その比率も常任幹事を除けば、保留を含めて相当数の反対があったことも考えるべきであろう。

◆全国組織調査が実施され、内部充実の具体的方策の資料としても大変重要なものであろう。来年三月には組織倍加月間として、全国的にそれぞれの拡充がなされると思うが、内部充実の年にふさわしい成果を期待するとともに全国会員諸兄の事前の準備を含めて絶大なる協力を願うものである。

◆本年も残り少くなり間もなく歳末助け合い運動の月間に入る。毎年のことながら、全国で統一された運動が展開されることは、本会の誇りとするところであるが、他団体においても恒常実施されるものであるから、各員の成果を語るより他団体との協力体制による運動が展開されれば一層の効果が考えられると思う。

種々の問題を我々の手で解決できれば一番素晴らしいことであるが、先づは足もとから火のつかない行動力を養いたいものである。全国会員の健康を祈る。

オーストリア青年運動会議 議定書を交換
本会初の姉妹団体として

昭和三十八年一月第一次欧州使節団を派遣し、オーストリアにあるオーストリア青年運動会議を訪問して以来、本会にとっては友愛精神を基調とする国際交流の一端をヨーロッパに向ける同時に前鳩山一郎会長の提唱した友愛憲想の根元となった、クーデンホフ・カレルギー伯の思想の処において、姉妹関係を結ぶようにとお互に議定書の交換が約束された。これまでに周知のことと思うが青少年の育成と活動をもって世界平和実現のための具体的な施策として、将来は国の指導者としての要素を多分に考慮し、この種活動の意義を高めて行こうと考えて、友愛精神あるいは博愛において一条の共通点を見出したものである。

今年月に派遣されたハンガリー青少年交歓団によって、山崎栄常任幹事第二次使節団としての役割を持って、オーストリア青年運動会議を訪問し、バッハヴィーゼル会長を始めアイグナー副会長、フリッツ事務局長その他役員との間で協議の結果、ここに掲載された内容によって議定書が作成され同時にバッハヴィーゼル会長のサインされたものが本会あて、届けられたものである。

本会では去る十月三十一日第十七回全国幹事会によって審議決定され、来る十一月十一日国際問題委員会(別沢定勝常任幹事)によって議定書を正式調印ならびに交換するために使節団として派遣されることとなった。

本会の国際交流は東南アジア使節団の派遣によりマレイシアにおけるM・A・Y・Cとの交流親善を深めるとともに、女子留学生の受けれ、また今回のオーストリア青年運動会議の交歓により、独自の国際関係を持つことになり、本会の目的達成の段階として徐々に上昇していることは非常に喜ばしいことである。

全国の会員諸兄姉の懸命なる研究によって、この議定書をよく理解し、友愛運動推進のための一助として、各組織の活動内容に良く生かすことを望むとともに、交流を深めるためばかりでなく、本会を紹介するにふさわしい事業と内容を研究企画し、実行して頂きたいものである。

議定書

1、オーストリア青年運動会議と友愛青年同志会の組織の指導者はこれからも両組織を発展させるために、お互いの結びつきを保持し提携する。

2、両組織は、新聞、本、資料等の刊行物によって、お互いの組織をより深く理解するために活動状態を交換し合う。

3、オーストリア青年運動会議と友愛青年同志会とは、将来公式に姉妹団体と呼ばれる。また、あらゆる重要な公示にそれを表示する。

4、オーストリア青年運動会議と友愛青年同志会とは、互いに第三者の機関に対し、特に大規模な国際的な委員会において正式な代表権を与え合う。

この代表権は、他方の代表されるべき組織の投票権を含まない。これに関し正式の代表権を行使する前に、その都度代表される側の組織と適当な協定が結ばれるか、または、その者の見解を得なければならない。

両組織の本部では、密接な同盟関係の表示として、姉妹団体の旗が自己の旗と並べてかかげられなければならない。

5、オーストリア青年運動会議と友愛青年同志会は、一年に一回、この二つの組織の緊密な仲間として祝う日を決める。

この日の行事は一連の競技会によって、仲間としての連携を深めるために おこなわれる。

(A) 弁論大会＝問題は世界の平和と意志の疎通等

(B) 同じような問題で論文や出版物の発行

(C) 画報、絵画、民族のおどり、その他

6、両組織は専門家の交換を行なう。その目的は、両国の青少年問題を研究すると共に、両団体の事業を体験し、会員同志の親交を深める。

双方の旅費は派遣団体が負担する。

7、会員として正式に認められ、受入れ団体は滞在費を負担する。

研究またはその他の理由で姉妹団体の国に滞在する双方の会員は、できる限り滞在側の団体の助言と援助を与えられる。

8、両組織は、男女ができるだけ多くの言葉による文通をし、国と人々がより身近になるように討論等をする。

9、両組織は、素人無線局を作りお互いに迅速なる情報の交換に務めることを考慮する。

10、この協定は、オーストリア青年運動会議と友愛青年同志会の、しかるべき権限ある代表が署名の後、直ちに発効される。

署名

関東学生部 音楽祭開く
歳末助け合い運動の為に

関東学生部（委員長＝宮崎久男）では、去る十月十四日（木）午後六時より九時まで第三回友愛音楽祭ブラボー・ミュージックを新宿の安田生命ホールにおいて盛大に開催した。関東学生部では歳末助合い運動の資金カンパのため、過去友愛活動を通じ、その収益で社会の恵まれない施設を訪問してきたが本年もまた、その趣旨のもとにチャリティーショー開催の運びとなったわけである。

当日は生憎の雨模様であったがホールは満員で秋の夜長を軽音楽のスウィートな調べに耳を傾け、楽しいひとときを過した。今回は工学院大学マンドリンクラブ、慶応義塾大学熊坂舞台アルテット、共立女子大学プチ・アイランダース、立教大学ランブラース、東京大学イースト・ハード（出演順）の五バンドの競演で、モダンジャズからハワイアン・フォークソングとそれぞれの持ち味が楽しめ好評であった。

秋田昌開着の名司会はすでに定評のあるところだが、この日も十八番の落し話やユーモアで笑わせて終始なごやかな雰囲気が漂っていたのも彼の奮闘の御陰によるものだと思う。

この日の為に計画を練り実行しはじめたのは、そろそろ梅雨に入ろうという六月にさかのぼるがその間多くの方々の御協力、御支援を受けて無事成功のうちに終える事が出来た。音楽のシーズンで多忙中にもかかわらず快よく承知して下さった各出演バンドの皆様、会場使用の際すっかり御世話になったホールの方々に対して一同感謝の念が絶えない。

私達はこの収益をより有効に活用させようと、目下歳末助合い運動実行委員会を組成しその準備にとりかかっているが、次号の新聞にはその事について触れる事が出来ると思う。

結婚を祝福しよう

◇山口支部長、田中文人君は九月二日午後一時より山口県婦人会館で華燭の典をあげた。

◇神奈川県川崎支部の情報宣伝部長として活躍している杉原敏行君の結婚祝賀会は十月三日午後三時より川崎駅前ラジバーラーで開かれた。本部より扇形智恵幹事長が出席したが地元会員はもとより横浜支部からも多数の会員が出席した。

◇衆議院議員藤本孝雄氏（本会会員）は、かねて婚約中の菅原泰子さんと通産大臣三木武夫先生の媒妁により十月十一日ホテルオークラで結婚式を挙行した。本会から奥田部副会長、尾形智恵幹事長が出席した。

◇本会相良拠資任者の樋口碧君は山口勝子さんと婚約が整い十一月三日正午よりニューフクオカに結婚式をおこなった。

◇十一月三日本部事務局に勤務する馬場早智子さんは、故郷の福島県会津若松市において、かねより婚約していた法律事務所に勤務する小田山勝則君と晴れて華燭の典を挙行した。当日は早川広中常任幹事、宮田事務局長が出席し会員を代表し祝福した。

◇早川忠光君（常任幹事・軽井沢友愛山荘管理主事）はかねてより婚約をしていたデザイン専攻の井場淳子さんと、フジテレビにより十一月九日正午テレビ結婚式を挙行した。続いて午後五時三十分より、横浜シルクホテルにおいて披露宴を開催し、知人、先輩、友人等関係者百二十余名が集い祝福した。これからは軽井沢に住み、友愛山荘の責任者として友愛運動に専心することとなり、一層の協力を願っている。

歳末助け合い運動
本を贈りましょう

東京都支部運委会（会長柳沢定勝君）では、去る十月二十五日の都運幹事会において、歳末助け合い運動の一環として、地域的に本を自由に手に入れることのできない人々に本を送る運動をおこなうことを決定した。

読んでしまって不要になった本を寝かせず眠っているのはもったいないことです。内容はどんなものでも結構です。多くの人々に利用してもらえるようにしましょう。

◇締切日　昭和四十年十一月三十日までに到着するよう送るかまたは届けて下さい。

◇送り先　東京都文京区音羽七の十、友愛青年同志会都連

◇集施　昭和四十年十二月の都運幹事会において送付先を決定し十二月中に送付します。

古沢潤一先生死去

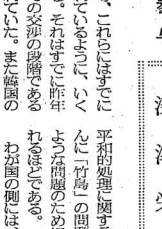
古沢潤一先生は去る十一月六日午後七時、狭心症のため死去された。

鳩山一郎先生の長女である白合子様の御主人として、前輪出入銀行総裁を務められ、引退後は共立女子学園監事役として、また財団法人日本友愛青年協会監事として友愛山荘設置のために功績があった。

解説

日本人と朝鮮人の相互理解のために

常任参与　深津栄一



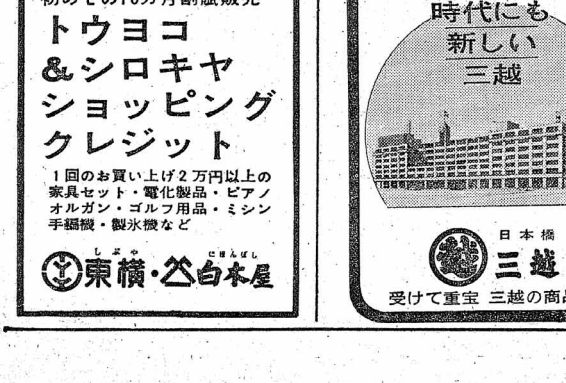
別にとりたてていうことではないが、わたくしはこれまで、比較的海外に行く機会によく恵まれてきた。アメリカやヨーロッパ、それに東南アジアやアフリカまで一応ひとまわりした。しかし、朝鮮には未だ一度も行ったことがない。わが国にもっとも近い国であるのに。

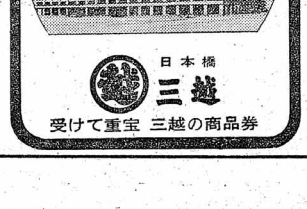
これは、わたくし自身の国際的視度の問題というよりは、戦後二十年この両国に正式の国交がなかったことによる。先年東京で行われた国際法協会の世界総会で、京城大学や高麗大学の国際法学の教授の方々と知りあいになり、たがいに論文を交換するようになった。それまではまったく韓国の学会の事情がよくわからなかったのである。

このもっとも近い隣国がどうしたがいに国際交流できなかったのか。いろいろあげることができよう。こちら側にあったとも、むこう側にあったとも、また双方の側に。さらに世界の情勢がそうさせていたのだとも。しかし、朝鮮の人々の間での「三十六年間の事実」の忘却の速度が、日本の側のそれに比して、はるかにおそいことは当然である。日韓交渉の経過に関心のあった人々は別として、大部分の日本人は、朝鮮との国交が二十年にわたって中断されたままになっていることを忘れていたようにさえ思われる。

わが国と韓国との国交正常化をとりきめた「基本条約」、十二項の漁業専管水域を定め「李ライン」を事実上廃止した「漁業協定」（ただし有効期間は五年）、無償千八十億円、有償七百二十億円（金利三・五％、七年据置二十年で償還）、民間信用供与千八十億円などをとりきめた「経済協力協定」、日韓両国人の法的地位と待遇についての協定、文化協力協定、その他多数の交換公文、議定書、合意議事録、口上書等の附属文書等、これらにはすでにいろいろ論じられているように、いくつかの問題がある。それはすでに昨年から本紙における双方の段階である程度明らかにされていた。また韓国の国会審議における条文解釈と、わが国の国会における それとの間に、いくつかのいい違いのあることも問題である。この問題は条約の「実施」に直接影響をあたえる問題であるだけに、双方の政府によって今後ひきつづき「統一解釈」をとりきめるための努力がなされなければならない。双方の外交首脳の「経済協力」の履行に関する困難を解決することができないのではなかろうか。「日韓両国間の紛争の平和的処理に関する交換公文」は、たんに「竹島」の問題だけでなく、そのような問題のためにあるとさえ考えられるほどである。

わが国の側には、この条約を全体として「譲りすぎた」という反対論がある反面、南北朝鮮の分裂を「固定化」するという反対論もつよい。しかし、三十六年間の日本統治」を、植民地主義による「悪」と断定するかぎり、わが国の側での反省は、具体的には「譲歩」というかたちで示されるのが当然である。朝鮮の人々による日本に対する「感情」は、「南」に属していようと「北」に属していようと、そんなに違いないように思われるし、わが国がその「反省」を率直に表明したものとして この条約を見るとき、それは日本人と朝鮮人との相互理解に大きな貢献をするものと見ることができよう。あるいは、少くとも、南半分だけでも「反日」にしないという積極的意義を、そこに見出すことはできないであろうか。敗戦によって「どん底」にまでおちたわが国の経済は、一九五〇―五一年の朝鮮動乱を機会に立ちなおった。朝鮮の人々が戦禍に苦しみつづけていた時、わが国は逆にその復興成長への足がかりを得たと言ってよい。人間と人間との相互理解をひらくという意味において、いくつかの問題は残っているが、この日韓の国交正常化に賛意を表したい。【日本大学助教授】





社会教育の将来と国立社会教育研修所

二宮徳馬

去る十月一日、「社会教育関係職員、社会教育に関する団体の指導者その他社会教育の関係者に対し、社会教育に関する専門的、技術的な研修を行なう機関」（文部省設置法第二十条の三）として、国立社会教育研修所が設置されたことは、紙上その他で、少なくとも社会教育関係者には、周知のことであろう。建物は日図書館職員養成所を改装した、もうかなり古い木造だが、土地は千坪近く、裏手は寛永以来の上野の山のおもかげをまだ多分に残している。隣はいわゆる上野の図書館で、研修所を訪れる人びとに、学生の頃この図書館にはよく通ったものだとかいう方も多いことだろう。

たしかにこの図書館にあったものは、私の研修はこの図書館にあったものは、私の研修はこの図書館にあったものだとかいう方も多いことだろう。

研修所はまだ、なんとしかしかの資料のおかげで、なんとかなるが、研修所はまだ、これから、日本の社会教育の歴史を負って、一歩一歩限りない将来の開拓にあゆすんでいかなければならないことを思うと、こうした環境が偶然でないように考えられる。何年か後、日本の社会教育関係者の多くが、私もここで勉強したので、私が生涯を社会教育に捧げた土台はここで築かれたので、という日がくるにちがいない。いやそうならなければ、わが社会教育史に初めての一頁を飾る研修所設立の意義は全くないといわなければならない。だからこそ、このスタートを切る者の責任は重いのだ。

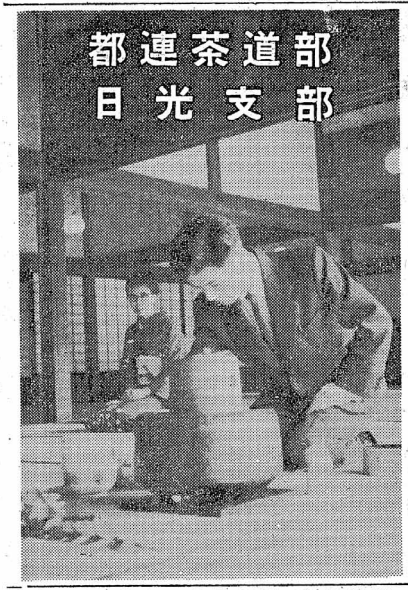
アメリカのある文明評論家が、こういう意味のことを言っている。かつての成人教育の課題は文盲撲滅にあった。しかし今日では字の読めない字あくらは殆んどいない。だがその反面、近くは見えても遠目の効かない近分目と、遠くは見えても近くは見えない遠目がふえてきた。これからの成人教育は、このような近か目慾者と遠目患者の撲滅に当らなければならないと。たしかにこれからの人間は、何かの専門家である一面で、このさまざまな専門が綜合された全体について理解し責任を持たなければならない。少なくとも近か目や遠目では社会教育はできないということだ。

だとしたら、研修所がとりあげる研修内容は、対象に応じた専門性を持つと同時に、人間としての教養、市民としての自覚を高めるのに役立てなければならない。研修一般を欠いてはならない。研修のしかたも、これだけ修得したらいいという、資格付与のための養成所とはちがって、それぞれなんらかの経験と考えとを持つ成人の研修だから、原則として、ワークショップの形をとるべきであろう。ワークショップの大事な点は他から教えられるのを待つのでなく、自らすすんで学びとる姿勢だ。ワークショップとは、これでよいという終りはない。むしろ、どこまでいっても、より高い次の段階への意欲と要求とを加えるものでなければならない。したがって研修所は、単なるコースの切売りでなく、社会教育に関係するすべての人の、常住不断の研修機関でなければならない。

たとえば図書館や公民館のように、必要な人と物とを常置して、常時の研修や相談の求めにも応じ得るセンターになったものである。そうでなければ、ことさらに一つの所轄機関として独立させる必要はないのであって、せいぜい文部省内に一課なり一局なりを設けて、従来通りの研修事務に当らしめればよい筈である。

最後につけ加えたいことは、九月十六日の開所式のとき、乾杯の杯を高くかかげながらいわれた松村謙三氏の言葉だ。研修所は国立であるから、全国民のためのものであるから、公務員の研修に資するばかりでなく、民間の人々の研修の場であってもらいたいと。力強い一語一語は、日本の社会教育の将来を戒めるようでもあった。

【筆者は国立社会教育研修所長】



全国組織調査を実施

本会充実の焦点を示唆

本会ではかねてから内部充実が叫ばれており、全国大会で本年は将にその年であるとされた。そこで内部充実の何処に重点を置くか、現状把握のため、組織委員会では去る月より三回にわたって友愛全国組織調査を実施した。

昭和三十八年にもこの種の調査が実施されたが、一回おこなわれただけでその内容も盛り沢山であったため集計も思うようにいかなかったようである。

本年はその反省に基いて、内容が三段階に分けられ、継続的に各組織と連絡がとられた。第一回、第二回の調査は現状把握に重点が置かれ、第三回の調査は各組織の問題点及びこれからの活動への積極的意見を聞くことに重点が置かれた。

次にその内容の主なものを掲載するが、友愛の現状把握と共にこれからの活動についての大きな示唆を含んでいるだろう。

第一回組織調査においては事務上の連絡等表面的な活動面に重点をおいた。

(一) 会員の保有数はaのようになっている。

(二) 会費については図bのようになっている。

(三) 総会（大会）については各組織とも全国大会に向って三月～四月に招集になっている所が多い。

(四) 他組織との交流は図cのようになっている。

以上でわかるように活動している組織のほとんどが二十名～五十名とあまり大きくない普通のサークル的なものである。また、本年度の全国大会で決定した会費もまだ徹底していないようである。組織同志の連絡については県内ならともかく、県外との交流はほとんどなく、地方組織同志の一の連絡の強化が望まれる。

第二回の組織調査においては、各組織の活動状況についての把握をまとめた。

(一) 教育委員会社会教育課との連絡について

(二) 独自の印刷物の発行について

(一)、(二)については図の通りである。

(三) 機関紙『友愛』については殆んどの組織が会員に送っているようであるが少数ながら消極的な所がある

(四) 年間行事の主なものについては別の機会に譲る

以上の通りであるが、本会は中央で文部省と常に緊密な交渉をもち、常年活動をすすめてゆくための社会教育団体として認められている。地方においては社会教育課との連絡を十分にとっていない組織も見受けられるが、青少年活動と社会教育活動の関連性を考慮するならば、さらに本会の活動が地域社会と結びつくためにも、社会教育課との連絡提携は必要不可決のものである。印刷物についてはできるかぎり発行することが望まれる。例えばそれがワラ半紙にガリ版で印刷されたものであってもこれが会員同志のつながりを深めさらにはこの積み重ねが心の通ったさやかな活動報告にもなる。また、この印刷物の交換が他組織との横の連絡を強固なものにしてゆける。

第二回の組織調査においては各組織の問題点および本部への要望これからの活動への積極的意見を聞くことにした。また、その内容は多岐に渡るので代表的なものを掲載するに留めた。

(一) 各支部、地区組織における問題点

まず、会員のことについて、新入会員が入っても、友愛思想の具体的な内容が理解しにくく会員がついてこないし、自らも説明がむずかしい。及び農村においてはそれ以前問題として若い青者が村にいないということ、いや市や町へ勤めにでていて会合が思うように開けない。

理論面について、これが友愛だという決め手がなく、自分達に合った解りやすい友愛の理論的展開がなくて困っている。

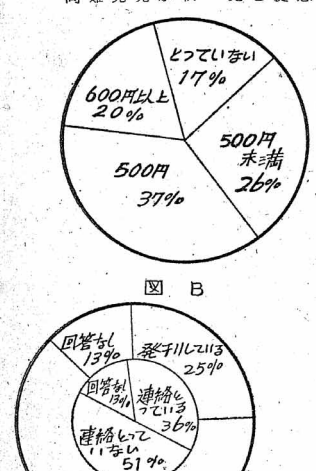
資金面については会員からの納入が少ないようである。集会場については適当な場所がないというのがほとんどであった。

(二) 組織活動をすすめてゆくうえでの意見

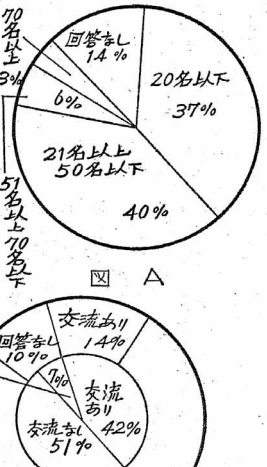
機関紙は定期に出してほしいがほとんどであった。組織巡回については時間的余裕をもって回ってほしい。活動の停滞している所へのテコ入れの研究が先であるが主なものである。

友愛思想普及、地方活動家養成については、友愛の根本理念を啓蒙するのに必要な資料を提供してほしい、とか研修会をもっておこなってほしいとの意見があった。

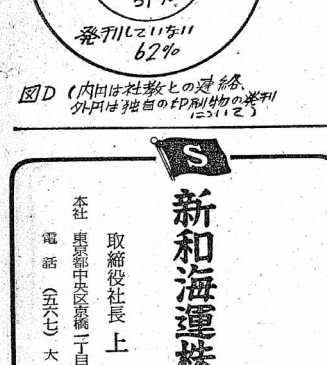
以上簡単ではあるが友愛の現状というものが握めるのではないかと思う。本会が常年活動に出発点をおき、質的にも、量的にも発展するには、まだまだ多くの困難を乗り越えなくてはならないと同時に、研究が必要のようである。



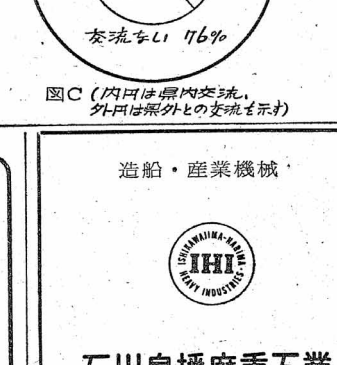
図B



図A



図D（内円は社教との連絡、外円は独自の印刷物の発刊について）



図C（内円は県内交流、外円は県外との交流も示す）

日光で茶道の交流

都連茶道部の事業に成果

去る十月十七日、都連茶道部賞任者＝田中祥子巻）では初の県日光支部（支部長＝遠田健一郎）と交歓会をおこなった。会場は輪王寺・紫雲閣内で、茶の場には最適の場と思われた。

この日、日光では東照宮の三百五十年祭があって大変人出でにぎわった。これはNHKテレビで紹介されたので御存知の方もあると思う。

茶道部からは十一名、地元からの参加が少なかったのは祭りのためとはいえ淋しかった。しかし行きずりの人に茶をのんで頂くという始めの目的は十分はたされた。

心配された前日の雨も上り、祭りにふさわしい静々とした秋の日となった。午前起床で茶会の備に掛り、待ちかねている先生方が出迎えの人と行き違って運搬したため、茶筅には一番大切な花も入らず、風炉の灰も用られていなかった。旅先での茶会は十分用意したつもりでも手違いが起る。今度は大丈夫と思ったが人の行過しがあった、時間がないので自宅にて花も灰も間に合わせる。さてこれで全部と思い、まず一点前に始めると風炉先がない。これも大変に困る事である。しかし先生方は、行幸した時使った「けっかい」を作った。これは竹等を切って間に合わせるのであるが、竹がないので地元でいう「カミソリの木」を切ってそれにした。準備には時間が掛るが始めると時間はすぐ過ぎてしまった。

茶を見物し、茶を点て、東照宮その他も参拝が少しずつ分かれて見学するために、持参の弁当も少なくなったこの日の茶会をとじた。

水屋（これは台所のような処）で茶道具を仕舞っている時、日光の支部会員の方がみえて、自分は茶道というものを真のあたりにするのはこれが初めてだが、茶道がこんなにも自分達の身近にあるものとは思わなかった。今日も家を出る時本気で双眼鏡を持って来た。青年時代を戦地で過し、復員してはガムシャラに働き、気がつくと自分の回りは皆身をかためてふらふらしているのは自分だけであった。そんな時を過した人間なので茶をおこなう人は世界の違う金持とか、高貴の人のする事で自分は遠くから眺めるものとばかり思っていたという。この人達大変喜んでくれたので今度の茶会は充分むくわれた。

最後に三百五十年祭記念等にお骨折りでさった遠田支部長、日光の方々に紙上をかりて深く感謝する。

スキーのお知らせ

過去三回にわたり開催されておりました都連主催「友愛スキー教室」は磐梯友愛山荘のつづくにより二月中旬より三月下旬の間に行う予定ですので、皆様の御参加を期待しております。

都連事務局長　清水　幸重

S
新和海運株式會社
取締役社長　上中龍男
本社　東京都中央区京橋一丁目三番地・新八重洲ビル
電話（五六七）大代表一六六一番

造船・産業機械
IHI
石川島播磨重工業
代表取締役社長　田口連三
千代田区大手町2－4
(270) 9111大代表

OKI
沖電気
工業株式会社
東京都港区芝琴平町10番地
（新虎ノ門ビル）
電話東京大代表（501）3111番

製造品目
各種交換装置・各種電話機
搬送通信装置・装荷線輪
無線装置・回路部品
表示装置・電子計算機
オートメーション用機器
富士通信機製造株式會社
本社　東京都千代田区丸の内2の8
工場　川崎・須坂・小山・下館

地方だより

福祉活動に協力を
患者の社会復帰を希望

【岡倉川発】去る十月二十八日（木）午後七時より四日市保健所（岡山県愛生園内の県人会）重五十鈴会の方々と座談会をおこなった。

出席者は、県人会会長青木茂氏外五名、県厚生防課高村忠雄主事本支部より井川支部長以下五名であった。

座談会は、終始なごやかな雰囲気の中でおこなわれた。五十鈴会の方々は、既に無菌者であり後遺傷として手足に少々残るだけで社会復帰を強く希望している。

ライ病は治る病気であり、初期の状態に入院すれば完治するので早く入院する事を望む等県知事をとることを話し合った。

阿倉川支部より会員が集めた、陶器、季節花卉の土鍋、植木鉢、小さい動物の置物等を五十鈴会の方々にプレゼントをした。

松井利夫事務局長談＝本支部はライ病を中心に取り扱いかたりの成果を挙げているが、全国各支部地区の会員の皆様の御協力を得ます。して全国的な運動にしたいと考えております。

昭和支部 茶道部を結成
会員の親睦・向上を目指し

【名古屋発】本会昭和支部（支部長＝伊藤幸八郎君）ではかねてより文化サークルの一つとして準備を急いでいた「お茶の会」を九月五日（日）午後一時より岡本俊論昭和支部相談役宅にて正式に発足させた。

当日、岡本相談役の母親であり、お茶の会の師匠でもある岡本久子さんの外五名の会員が集まった。

お茶の会設置には、酒井ゆう子さんが選出された。お茶の流儀は清風流である。本お茶の会は会員は現在六名であるが、毎月第一、第三日曜日の午後一時より二回定期的に開催し、会員獲得に乗り出す予定である。

今後は、東京都連茶道部を見本にして、健康的活動を行ってゆくように努力する。

市川支部 球技大会開催

【市川発】去る十月二十四日（日）、市川支部（支部長＝今関勇治君）では市川市国府台の千葉商科大学のグランドで、市川支部と、グリーコーラス選好会で合同体育祭をおこなった。

参加者は二十名程で、ソフトボール大会とバレーボール大会をおこなった。市川支部はソフトボールの優勝決定戦で惜敗して準優勝バレーボールは一回戦で負れた。

歩け歩け運動に協力

【伊賀上野発】去る七月十八日（月）本会伊賀上野支部（支部長＝加藤和夫君）では十月十八日午前七時より八時まで「歩け歩け運動」をおこなった。

上野市では、上野体協、団体工会議所など民間団体と協力して市民の健康増進のためおこなったものである。

当日、本会より本部理事顧問川崎芳二氏議員他十名の会員が参加朝モヤの中の三・五㎞の道を元気に健脚には実によい」と話し合いながら歩いた。

今後は、この「歩け歩け運動」を毎月一回実施し、第二回以降は女性の参加を呼びかけ、広く市民運動にする予定である。

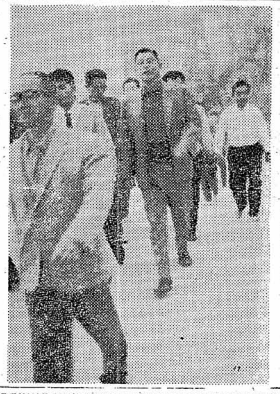
福島県連 大会開催さる
新役員を選任事業等充実

【福島発】去る九月十一日本会福島県支部連合会では第二回福島県連大会を午後一時より磐梯友愛山荘にておこなった。

運動方針、事業計画等の審議が続いて役員選出につつり、次の新役員が選出された。

会長　清水　文夫
副会長　鈴木　武彦
同　鈴木　滋雄
事務局長　吾妻　充
〃次長　浅川　静夫
会計　岩巻　克子
監査　高久　俊昭
同　浅沼　清子
組織委員長　富樫　房枝
財政委員長　菅野　保男
大川原比考

加藤和夫支部長談＝本支部では第二回以降は、積極的に沢山の会員を参加させたいと考えている。本会も今年より体育部が設置されたことでもあるし、これからは、どしどし健康増進のための「歩け歩け運動」の様なものを本支部独自の企画のもとに実施したいと思っております。



【写真は朝モヤの中を歩く本会々員】

社会見学で新聞社へ

【岐阜発】本会岐阜支部（支部長＝長瀬隆文君）では、十月十七日（日）午前九時に新岐阜駅に集合九時二十七分発の電車で名古屋へ出発した。

日曜日でもあり、行楽客で電車内はたいへん混んでいた。その日支部会員は社会見学の目的で中部日本新聞社を訪問した。

当日は夕刊が休みのため、新聞社内には従業員もいなく、輪転機も動いていなかったが会員は熱心に社内を見学して歩いた。新聞社の人から新聞が作られ家庭に配達されるまでの行程、突発事故、天災の時に大活躍する鳩の話などを聞き新聞についての識をあらためた。

新聞社見学後、植物園で反省会をおこなうつもりではいったところ、丁度昭和支部の会員もいあわせ、思いがけなく懇談会をおこなうことが出来た。

【写真は五十鈴会々員と懇談する本会々員】

一言放談

友愛センターの夢を

常任幹事　鶴巻克雄

今年五月の全国大会で友愛の未来像についてさまざまな大風呂敷を拡げてみた。

地階はモーターブル、一階は友愛青年同志会本部事務所と財団法人日本友愛青年協会の事務所、夏冬を問はず使用出来る室内水泳場、一階は、バトミントン・卓球・バレー・バスケットなどの出来る体育フロアー、三階は毎年全国大会の会場で苦労しているので二千名以上収容可能な講堂と小会議室、四階以上は東京友愛山荘に充てるなどと、東京都文京区窓羽支部、センターの構想について夜おそくまで語り合った。

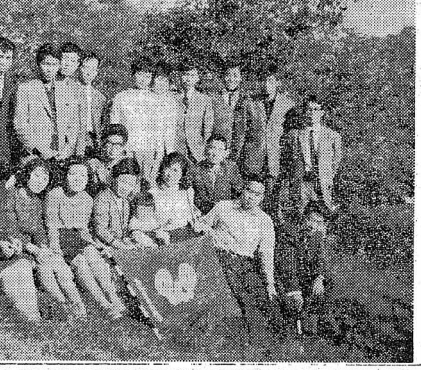
この友愛センターの構想を他愛のない夢だと笑うなかれ、もし冷笑する人がいたら、結成以来の会活動の歴史と現在の組織の組織図に重ねて比較してみると、東京都文京区窓羽支部、いや音羽地区であったかも知れない。十三年を経て今日、単一組織として我が国最大の青年団体へと成長し、軽井沢・尾道・盤勝・背振・高松など各地に友愛センターを建設したエネルギーの源泉は何であったのであろう。

友愛社会の建設を目指して、友愛思想の普及、青少年外郭に教育の場を提供しようとしての山荘建設運動、社会福祉、社会教育活動等々にみられる成果はいずれも会員の青年らしい努力の結晶に他ならなかった。

青年には勇気と行動力が満ち溢れているが、とかく政治的に支援体制が形作られるようになって来たので数年後には期待出来るようになろう。

友愛の諸活動がスムースにおこなわれるには会員のそれぞれが、その嗅する職域において指導的立場に立ち得るようにならなければならない。友愛寄ちの政治家、実業家、学者、活動家が輩出して青年の行動力に背後から経済的、政治的、理論的に支援出来る体制が一日も早く出来上る ことを望む切である。我々の希望と信条は、常に将来にあることを認識しようではないか。

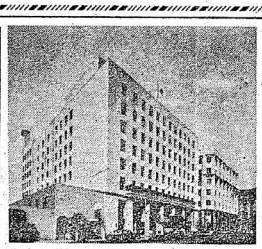
（中央教育指導部長）



中央日誌

10/11 世界青年会議連絡会議（正午　於中青連事務局）
海外技術協力隊入所式（後二時　於海外技術協力隊事業団中央研修センター）
12 日青協役員との懇談会（後六時　於会長邸離れ）
オット一殿下来日（後九時二十分　羽田着）
14 古家陸男若ヨーロッパより帰国（後五時五十分　羽田着）
関東学生部音楽祭（後六時　於安田生命ホール）
15 世界青少年交流協会（後一時　於総議院第二議員館）
16 総理を囲む懇談会の打ち合はせ会（前十時　於総理府会議室六〇一号）
オット一殿下帰国（後七時三十分　羽田発）
17 学生部例会（前十時　於鎌倉）
18 政府海外派遣団北欧班、南欧班帰国報告会（前十時　於総理府会議室四二九号室）
20 若人の森建設委員会（後一時　於日青館第一青年ルーム）
21 学生部常任委員会（後五時　於本部）
22 核禁東南アジア平和使節団歓送会（後四時半　於萬寿）
世界青年会議実行委員会（後四時・於総理府地下会議室）
国立社会研修所（後一時・於上野図書館）
23 第二十回芸術祭（後五時・於日青館ホール）
核禁東南アジア平和使節団出発（正午・羽田発）
24 カレルギー研究会（後七時・於赤坂浜野）
25 国際交流委員会（後七時・於赤坂浜野）
26 世界連邦日本青年協議会常任中央委員会（後五時半・於衆議院第一議員会館）
世界青少年交流協会設立準備会（後一時・於衆議院第一議員会館）
友愛婦人会臨時役員会（後一時・於衆議院第一議員会館）
10/1 WAY委員会（前九時・於中青連）
2 社会教育研修所プランニングコミッティ（後一時・於上野図書館）
政府海外派遣団北欧班帰国報告会（後一時・於総理府会議室四二〇号）
3 馬場早智子さん結婚式（前十一時・於日青館東洋軒）
4 若人の森打合わせ会（前十一時・於日青館）
友の会洗い張り講習会（於はなれ）
6 日韓批准・促進国民大会（於厚生年金会館）
政府海外派遣北欧班帰国報告会（前十時・於総理府会議室四二九号）
労働者体力づくり推進中央大会（前十一時三十分・於都市センター）
7 早朝墓参会（前六時三十分・於谷中墓地）
体力づくり国民会議（前九時三十分・於長崎県庁前）
8 友愛婦人会定例役員会（後一時三十分・於はなれ）
執行部会議（後六時・於本部）
9 早川忠光君結婚式（後十二時十五分・於ラジテレビ）
青少年総合センター小委員会（後二時・於虎の門勧業銀行三階会議室）
10 友の会和裁の集い（後一時・於はなれ）
WAY実行委員会（後一時・於中青連）
11 一時三十分・於はなれ）
27 三浦吉治常任幹事ヨーロッパより帰国（後八時五十分・羽田着）
世界青少年キャンプ常任理事会（後五時・於日青館明治食堂）
28 オリンピック記念青少年総合センター運営利用連絡協議会（前十時三十分於青少年総合センター）
日韓問題について考える青年集会（後六時・於日本青年館）
ジャリイル氏帰国（後四時三十分・羽田発）
31 全国幹事会（前九時・於桜陰会館）

あなたの暮しの設計に
ピッタリの積立預金
7つのプランから　あなたの目標をお育てください
住宅預金　家庭預金
自動車預金　旅行預金
育英預金　結婚預金
お好み預金
住友銀行



信託併営
大和銀行
本店　大阪市東区備後町2丁目
店舗（国内）全国各主要都市110余ヵ店
（海外）ロンドン・ニューヨーク

あかるい協和
のびゆく協和

協和銀行
日本一の支店網

実証された魅力

元本・利息とも完全に保証されており、利回りも1年ものでは最高の6分2厘余
長銀の債券
ワリチョー
日本長期信用銀行
本店　東京都千代田区大手町1の1
支店　大阪・名古屋・札幌・福岡
●くわしい説明書をお送りしますから、本紙名記入の上ハガキでお申込み下さい